

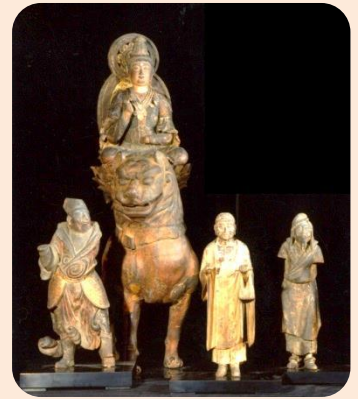
東北の仏教センター 慈恩寺と平泉に迫る

—奥羽仏国土の核としての慈恩寺—

11月8日に寒河江さくらんぼ大学歴史学部講座「東北の仏教センター 慈恩寺と平泉を知る」が開催されました。講師の岩手県立大学 菅田慶信教授からは、平泉研究から見た慈恩寺の姿についてお話をいただき、慈恩寺の歴史的解明に向け、新たな視点が提示されました。要点は以下のとおりです。



▲講座の様子



木造騎獅文殊菩薩及協侍像 ▶
(本山慈恩寺)

12世紀の慈恩寺において当時最先端であった中国(宋)の仏教文化とのつながりを示す作例。平泉の中尊寺にも同時期・同様の騎獅文殊菩薩像が存在する。

◇奥州藤原氏が目指した奥羽仏国土(浄土)

12世紀の東アジアは、仏教を政治・文化の共通理念とし、広域仏教文化圏を形成。奥州藤原氏は、長く続いた戦を終結させ、万人に平等な仏国土を奥羽の地に築くことを宣言。東アジアのグローバルスタンダードである仏国土による平和を宣言することで、東北に対する支配力を京都の政権に認めさせました。寒河江荘をはじめ東北各地の豊富な貢物を京都に贈ることでそれを確固たるものとししました。

◇奥羽仏国土と慈恩寺

平安期の慈恩寺は、御願寺にふさわしい「仏・法(経典)・僧」をそなえた出羽の仏教センター。奥羽の仏国土は、平泉の寺だけでは成立しない。出羽村山まで勢力を伸ばした奥州藤原氏は、慈恩寺とゆるやかな「仏国土連合体」をつくっていた。この奥羽仏国土は、京都の最先端の仏教文化を導入しながら、その模倣にとどまらずに、東アジアに通じた仏教世界を形成。平泉と同様に京文化だけではなく国際的な文物が慈恩寺にもたらされている。慈恩寺は独自性を保ちながらも、奥羽仏国土の核としての面も持ちながら、平泉と並ぶ東北地方の仏教拠点として発展していったのではなかろうか。



約50名の参加者は、市職員から説明を受けた後、工事担当者の案内で実際に仮設足場に上り、なかなか見ることができない江戸時代の匠の技を熱心に観察していました。

今回の修理工事では、屋根に野垂木を使わない寺社建築には珍しい構造をしていることや、屋根内部の部材に墨書が残されていることがわかりました。墨書からは、本殿建築に慈恩寺一山と新庄小国(現・最上町)の作事集団が関わっていることや、彫刻は慈恩寺の杉本坊善昌が担当していたことなどがわかりました。善昌は、部材に落書(和歌)も書き残しており、当時の人々の生き生きとした姿が浮かびあがってきました。

延宝九年(一六八一)に再建された本殿(県指定有形文化財)は、屋根周りを中心に損傷が著しく、昨年度から二カ年にわたり修理を行っています。

11月25日に慈恩寺熊野神社本殿の屋根修理工事の現場見学会が開催されました。慈恩寺熊野神社は、保元元年(一一五六)に後白河院の院宣により勧請。慈恩寺一山の鎮守として祀られ、さらに慈恩寺修験の拠点としても知られた、史跡慈恩寺旧境内の重要な構成要素のひとつです。

江戸時代の匠の技を見学 —慈恩寺熊野神社屋根修理工事見学会—

【イベント情報】

平成26年度慈恩寺行事研究会

「中世寺院について」

- ◇日 時/平成27年2月8日(日)
午後1時30分~午後3時
- ◇会 場/市文化センター・中公ホール
(寒河江市大字西根字石川西333)
- ◇講 師/東京大学史料編纂所
准教授 菊地 大樹 氏
- ◇参加料/無 料
- ◇申 込/不 要
- ◇問合せ/市生涯学習課歴史文化係
☎0237-86-8231



約600発を20分間で打上げ
休憩所の設置(慈恩寺活性化センター)
仁王堂坂を絵灯籠でライトアップ
慈恩寺スケッチコンクール作品展示

12月31日(水)
午後11時40分から
打上場所・慈恩寺活性化センター前

慈恩寺国史跡指定記念
慈恩寺大晦日花火大会
「雪月華」